様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	九州技術教育専門学校
設置者名	学校法人　赤山学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	情報システム工学科　システムデザインコース	夜・通信	780 時間	160 時間	
	情報システム工学科　メディアデザインコース	夜・通信	780 時間	160 時間	
	情報システム工学科　ＩＴデザインコース	夜・通信	300 時間	160 時間	
（備考）					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ktec.ac.jp/publicdata/faculty_with_practical_experience.pdf

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	九州技術教育専門学校
設置者名	学校法人　赤山学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.ktec.ac.jp/publicdata/board_member.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	元公立小学校長	令和５年 ５月 31 日 ～ 令和９年 ５月 30 日	組織運営体制のチェック
非常勤	元公立高等学校長	令和５年 ５月 31 日 ～ 令和９年 ５月 30 日	組織運営体制のチェック
非常勤	化学製品輸入販売商社代表 インバウンド観光事業代表 地域ブランド食品会社代表	令和５年 ５月 31 日 ～ 令和９年 ５月 30 日	組織運営体制のチェック
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	九州技術教育専門学校
設置者名	学校法人　赤山学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） シラバスは、全学科全教科を対象とし、本校規定「シラバス作成のためのガイドライン」に則り、２月末までに各教科担当教員により作成し、新年度開始前（３月中旬頃）にホームページにより公表する。 かつ年度開始時に、各教科担当教員より、シラバスをもとに学生への説明を行う。 「シラバス」公開方法 https://www.ktec.ac.jp/publicdata/syllabus.html より対象となる学科・コース・学年ごとの科目名を選択することで閲覧する 資料「シラバス作成のためのガイドライン」 https://www.ktec.ac.jp/publicdata/syllabus_guidelines.pdf
授業計画書の公表方法
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 成績評価は、本校規定「成績評価基準規定」に則り、各教科担当教員が２月末までに策定しシラバスへ記載する。また、成績評価時期（※１）において、策定した内容に則り評価を行う。 「成績評価基準規定」は、ホームページにより公表する。 ※１　前期末：９月 　　後期末：３月、ただし卒業年度は２月 「成績評価基準規定」公開方法 https://www.ktec.ac.jp/publicdata/grade_evaluation_standard.pdf

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

本校では、成績の客観的な指標としてＧＰＡを導入する。
成績評価をＧＰＡに換算する方法及び利用方法について、本校規定「客観的な成績分布の把握について」に則り設定を行う。「客観的な成績分布の把握について」はホームページにより公表する。

「客観的な成績分布の把握について」公開方法
https://www.ktec.ac.jp/publicdata/distribution_of_grades.pdf

客観的な指標の算出方法の公表方法	上記記載の URL にて公開

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

卒業に関する認定は、卒業年度末において卒業判定会議を開催し、本校規定「卒業認定基準」に則り判定を行う。「卒業認定基準」はホームページにより公表する。

「卒業認定基準」公開方法
https://www.ktec.ac.jp/publicdata/graduation_certification_standard.pdf

卒業の認定に関する方針の公表方法	上記記載の URL にて公開

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校)】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	九州技術教育専門学校
設置者名	学校法人　赤山学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://ktec.ac.jp/publicdata/financial_statements.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://ktec.ac.jp/publicdata/financial_statements.pdf
財産目録	https://ktec.ac.jp/publicdata/financial_statements.pdf
事業報告書	https://ktec.ac.jp/publicdata/financial_statements.pdf
監事による監査報告（書）	https://ktec.ac.jp/publicdata/financial_statements.pdf

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	情報システム工学科 システムデザインコース	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
			540 単位時間 /単位	1320 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
２年	昼	1800 単位時間／単位	2040 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
70 人 の内数	53 人 の内数	0 人	5 人 の内数	13 人 の内数	18 人 の内数

※システムデザインコース及びメディアデザインコースは、1 年次同カリキュラムを実施、2 年次にシステムデザインコースまたはメディアデザインコースのいずれかをコース選択するため、内数で表記。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 学生がソフトウェア開発の方法を理解し、実践的な開発ができるようになるために、設計、開発、テストの各工程について、基礎から応用まで、講義、演習及び実技を交え学習する。また、その際に必要となる、コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、セキュリティ、マネジメント及び情報戦略等の関連知識を基礎から学習し、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験等に合格できるレベルの知識を身につける。 【１年次】 プログラミング（Java 語, HTML）、情報基礎理論（基本情報技術者試験対応）、CG デザイン（Adobe　Photoshop、Adobe Illustrator）などの情報処理の基礎を習得する。 【２年次】 ソフトウェア設計、ソフトウェア開発（デスクトップアプリケーション、組込みシ

ステム、Web アプリケーション等）、情報応用理論（応用情報技術者試験対応）などの、システムエンジニアとして必要とされる開発技術を習得する。
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価は、本校規定「成績評価基準規定」に則り、各教科担当教員が２月末までに策定しシラバスへ記載する。また、成績評価時期（前期末及び後期末）において、策定した内容に則り評価を行う。「成績評価基準規定」は、ホームページにより公表する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業に関する認定は、卒業年度末において卒業判定会議を開催し、本校規定「卒業認定基準」に則り判定を行う。「卒業認定基準」はホームページにより公表する。
学修支援等
（概要） クラス担任を配置し学習相談に応じる。学習進度に応じ各教科担当者による授業外の個別指導を実施する。検定試験対策特別講座を実施する。学生一人ひとりに学内専用オンラインアカウントを配布し、教材の提供や情報の共有を行う。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26 人 （100%）	1 人 （ 3.8%）	21 人 （ 80.8%）	4 人 （ 15.4%）
（主な就職、業界等） システム開発、運用業界におけるシステムエンジニア、プログラマ、ネットワークエンジニア、サーバエンジニア等			
（就職指導内容） 個別面談、履歴書指導、ＳＰＩ・筆記試験対策、面接試験指導、未内定者フォローアップ			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、ＩＴパスポート試験、Java™プログラミング能力認定試験、Python プログラミング能力認定試験、サーティファイ（Excel 表計算処理技能認定試験、Word 文書処理技能認定試験）、Illustrator®クリエイター能力認定試験、Photoshop®クリエイター能力認定試験、Web クリエイター能力認定試験、コミュニケーション検定、ビジネス能力検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51 人の内数	1 人の内数	2.0%

（中途退学の主な理由） 病気のため
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学後早期に二者面談を実施。無連絡欠席の学生に対して欠席理由の確認。出身校を訪問し情報交換。教員同士の積極的な情報交換によりフォローアップを行う。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	情報システム工学科 メディアデザインコース	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間／単位	540 単位時間 /単位	1320 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			2040 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
70 人 の内数	53 人 の内数	0 人	5 人 の内数	13 人 の内数	18 人 の内数

※システムデザインコース及びメディアデザインコースは、１年次同カリキュラムを実施、２年次にシステムデザインコースまたはメディアデザインコースのいずれかをコース選択するため、内数で表記。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 学生が映像・CG クリエイター、Web デザイナー等を目指すために必要技術となるコンピュータグラフィックスの知識や各種制作ソフトウェアの利用方法、及び関係する情報理論について、基礎から応用までを、講義、演習及び実技を交え学習する。また、CG 検定、色彩検定、情報処理技術者試験（基本情報技術者試験、IT パスポート試験等）への合格ができるレベルの知識、技術を身につける。 【1 年次】 CG デザイン（Adobe(Photoshop、Illustrator)）、Web 制作・プログラミング（HTML、CSS、Java 言語）、情報基礎理論（基本情報技術者試験対応）などの情報処理の基礎技術を習得する。 【2 年次】 映像編集、Web デザイン、3DCG、DTP などのデザインについての知識を学習するとともに、それらを制作するために必要なソフトウェア（AdobeCC(AfterEffects、Premiere、Dreamweaver)、Autodesk(Maya)等）の使用方法を学習し、映像作品、ホームページ作品を実際に制作しながら、その制作過程や方法を実践的に学ぶ。
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価は、本校規定「成績評価基準規定」に則り、各教科担当教員が２月末までに策定しシラバスへ記載する。また、成績評価時期（前期末及び後期末）において、策定した内容に則り評価を行う。「成績評価基準規定」は、ホームページにより公表する。
卒業・進級の認定基準

（概要）
卒業に関する認定は、卒業年度末において卒業判定会議を開催し、本校規定「卒業認定基準」に則り判定を行う。「卒業認定基準」はホームページにより公表する。

学修支援等

（概要）
クラス担任を配置し学習相談に応じる。学習進度に応じ各教科担当者による授業外の個別指導を実施する。検定試験対策特別講座を実施する。学生一人ひとりに学内専用オンラインアカウントを配布し、教材の提供や情報の共有を行う。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8 人 （100%）	0 人 （ 0%）	5 人 （ 62.5%）	3 人 （ 37.5%）

（主な就職、業界等）
出版・印刷、Ｗｅｂ制作、映像・アニメーション、ゲーム業界における、ＣＧクリエイター、映像クリエイター、ＤＰＴデザイナー、Ｗｅｂデザイナー等

（就職指導内容）
個別面談、履歴書指導、ＳＰＩ・筆記試験対策、面接試験指導、未内定者フォローアップ

（主な学修成果（資格・検定等））
基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、ＩＴパスポート試験、色彩検定、Java™プログラミング能力認定試験、サーティファイ（Excel 表計算処理技能認定試験、Word 文書処理技能認定試験）、Illustrator®クリエイター能力認定試験、Photoshop®クリエイター能力認定試験、Web クリエイター能力認定試験、コミュニケーション検定、ビジネス能力検定

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51 人の内数	1 人の内数	2.0%

（中途退学の主な理由）
病気のため

（中退防止・中退者支援のための取組）
入学後早期に二者面談を実施。無連絡欠席の学生に対して欠席理由の確認。出身校を訪問し情報交換。教員同士の積極的な情報交換によりフォローアップを行う。

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
工業	工業専門課程	情報システム工学科 ITデザインコース	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
			750 単位時間 /単位	1110 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
2年	昼	1800 単位時間／単位	2040 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
30 人	20 人	0 人	5 人 の内数	13 人 の内数	18 人 の内数

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

１年次では情報処理技術者試験に対応した講義で情報理論を徹底的に学習し、加えてシステム開発に必要なプログラミング言語を豊富な演習を通し習得する。２年次からは学科の特徴である情報セキュリティ分野の知識を伸ばし、組織の情報管理・運用に精通した人材を育成する。情報分野・医療分野問わず、確保した大量の情報データの運用・管理・保全において力を発揮することができる新時代の「情報技術者」を育成する。

【1 年次】

プログラミング（Python、HTML）、情報基礎理論（情報セキュリティマネジメント試験対応）、CG デザイン（Adobe Photoshop・Illustrator）などの情報処理の基礎を習得する。

【2 年次】

実践的なソフトウェア開発演習（Web アプリケーション等）、ＣＧ作成、Ｗｅｂサイト制作、情報応用理論（基本情報技術者試験対応）などの、システムエンジニアとして必要とされる開発技術を習得するだけでなく、一般企業に不可欠なＤＸ人材を育成する。

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価は、本校規定「成績評価基準規定」に則り、各教科担当教員が２月末までに策定しシラバスへ記載する。また、成績評価時期（前期末及び後期末）において、策定した内容に則り評価を行う。「成績評価基準規定」は、ホームページにより公表する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業に関する認定は、卒業年度末において卒業判定会議を開催し、本校規定「卒業認定基準」に則り判定を行う。「卒業認定基準」はホームページにより公表する。

学修支援等

（概要）

クラス担任を配置し学習相談に応じる。学習進度に応じ各教科担当者による授業外の個別指導を実施する。検定試験対策特別講座を実施する。学生一人ひとりに学内専用オンラインアカウントを配布し、教材の提供や情報の共有を行う。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 （100%）	0 人 （　　%）	9 人 （　　75.0%）	3 人 （　　25.0%）
（主な就職、業界等） ソフトウェア・システム開発、システム運用、総務（ＩＴ活用）			
（就職指導内容） 個別面談、履歴書指導、ＳＰＩ・筆記試験対策、面接試験指導、未内定者フォローアップ			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、ＩＴパスポート試験、コンピュータサービス技能評価試験（ワープロ・表計算）、Access ビジネスデータベース技能認定試験、Illustrator®クリエイター能力認定試験、 Photoshop®クリエイター能力認定試験、Web クリエイター能力認定試験、コミュニケーション検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28 人	1 人	3.6%
（中途退学の主な理由） 進路変更のため		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学後早期に二者面談を実施。無連絡欠席の学生に対して欠席理由の確認。出身校を訪問し情報交換。教員同士の積極的な情報交換によりフォローアップを行う。		

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料（年間）	その他	備考（任意記載事項）
情報システム工学科	160,000 円	640,000 円	172,000 円	実習費、施設設備費
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

ｂ）学校評価

自己評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.ktec.ac.jp/publicdata/self_assessment.pdf
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、設置学科に関連する企業・団体、卒業生、保護者など、学校と密接に関係する者の理解促進を図り、継続した連携協力体制を確保するため、業界関係者、卒業生、保護者等学校関係者から規程に基づき選任した委員による「学校関係者評価委員会」を設置し「学校関係者評価」を実施する。 「学校関係者評価委員会」は、次の掲げる区分から校長が委嘱する委員により構成する。 １ 関連業界等関係者　２名 ２ 卒業生　１名 ３ 保護者　２名 ４ その他校長が必要と認める者　若干名 学校関係者評価の評価項目は自己評価と同一のものとし、以下の１０項目に関しての評価を行う。 １ 教育理念・目標 ２ 学校運営 ３ 教育活動 ４ 学修成果 ５ 学生・生徒支援 ６ 教育環境 ７ 学生・生徒の受入れ募集 ８ 財務 ９ 法令等の遵守 １０ 社会貢献・地域貢献 当該委員会による評価は、前年度の評価を毎年 6 月までに行う自己評価の進捗状況に応じ、次年度の計画策定までの間に 1 回以上開催する。評価委員の助言、意見などの

評価結果を当該年度の学校運営等の改善に活用し、評価結果と改善への取組をホームページに掲載し広く社会へ公表する。

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社 CLOUD-IA 代表取締役	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日	関連業界等関係者
Bestry 合同会社　代表社員	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日	関連業界等関係者
地元企業　従業員	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日	卒業生
九州技術教育専門学校	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 8 年 3 月 31 日	保護者

学校関係者評価結果の公表方法

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）
https://www.ktec.ac.jp/publicdata/stakeholder_evaluation.pdf

第三者による学校評価（任意記載事項）

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）
https://www.ktec.ac.jp/
学校案内パンフレット 2026 年度版

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H143310000139
学校名（○○大学 等）	九州技術教育専門学校
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人　赤山学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		38人（　　－）人	37人（　　－）人	39人（　　－）人
内訳	第Ⅰ区分	16人	12人	
	（うち多子世帯）	（　　0人）	（　　0人）	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	（うち多子世帯）	（　　0人）	（　　0人）	
	第Ⅲ区分	12人	－人	
	（うち多子世帯）	（　　0人）	（　　0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	－人	－人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－人	－人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－人（　　0）人
合計（年間）				40人（　　－）人

（備考）

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	－人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	－人
計	人	0人	－人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	人	0人	－人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当）	人	0人	0人
ＧＰＡ等が下位４分の１	人	0人	－人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	－人	0人
計	人	－人	－人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。